

高信頼性ICタグ

システムパニックを起こさない

新しいテクノロジーを現場に導入するとき、意外と忘れがちなのは、このこと
によって新しい障害事項を起こさないかどうかです。

何回か、書き込み型メモリの怖いところをご紹介していますが、どうしても
述べておきたいことは、書き込み型メモリは新しいヒューマンエラーを起こ
す可能性があることです。

現場の仕事がすべて計算機やロボットにまかせられるならともかく、極めて
複雑で似て非なるものの集合体を経済的に保守するためには、当面人間の
認知力、判断力は欠かせません。

とは言え、人間はまた、必ずやヒューマンエラーを起こすというのも、真実
なようです。書き込み型メモリを現場に適用すると、書き込みミスや書き
込み忘れが発生するという新しいリスクが発生し、分散型であるが故にそ
のリスク発見や低減、撲滅もまた大変なことになります。

一旦書き込みのトラブルが発見されると、すべてのICタグのデータが疑わ
しくなり、一気にシステムパニックになります。これは、実際に起こったこと
で、現在は書き込み型メモリでないICタグを使うことで解決しています。